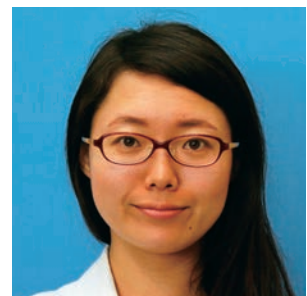


めでいかすとり Médicastre



「 丑年の年男・年女 」

年頭のごあいさつ



令和3年新年挨拶

一般社団法人 鶴岡地区医師会
会長 福原 晶子

明けましておめでとうございます。会員の先生方、職員の皆様におかれましては、ご自宅で穏やかに新年をお迎えになられた方が多かったので、と思います。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

昨年、新型コロナウイルス感染症がパンデミックとなり、日本においてもまだ増加傾向です。鶴岡地区においては、鶴岡市と協議の上、PCR検査のための検体集積所（サポートセンター）を開設いたしました。行政と共同でサポートセンターを開設したのは、県内で唯一となりました。当初、検体採取にご協力くださる医療機関が、どの程度手上げをしてくださるか不安でしたが、3回にわたる会員説明会を実施し、結果的に46もの医療機関が検体採取を行って下さることになりました。感染の機会がある中で、発熱患者の診療に携わってくださる会員の皆様方の「市民の健康のために」という心意気を感じられ、大変うれしく思っております。

一方、残念ながら鶴岡地区においては、クラスターが二つ発生し、その一つは、危惧していた医療施設での発生となってしまいました。年を越し、未だ収束する傾向が見えない状況です。感染の危険にさらされながら必死に現場で診療に当たられておられる、先生方、医療スタッフや職員の皆様の働きぶりに、改めて尊敬と感謝を込めて、早期の収束をご祈念申し上げます。嚴重な感染対策を行っているにも関わらず感染者が増えていく現実の前に、新型コロナウイルス感染の怖さをまざまざと思い知らされました。医師・看護師・介護スタッフの人的支援が必要な中、感染対策を考えると、なかなかそれも実行することが困難です。どうにかして支援を、という気持ちとは裏腹に、見守ることしかできない無念さは、体験したことがない思ひです。

昨年はまた、大きな方向転換を決定した年でもありました。60余年にわたる鶴岡准看護学院の閉校を決断したことと、休日夜間診療所の開設変更を鶴岡市に要望したことです。いずれも、会員の皆様には、反対のご意見や方針のお知らせの方法に対してのご批判などをいただきましたが、最終的にご理解いただけたと思っております。

このように、昨年に関しては、今までのような順調な医師会活動・業績報告ができませんでした。コロナ禍により、上半期は、利用者・入院患者の減少から、実績がかなり落ち込みましたが、下半期になり、かなり回復してきております。全体的にも、感染に注意しながら、それぞれ順調に推移してきており、職員の皆様のご努力には、心から御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症という、未曾有の災害ともいえる状況にあり、例年と比較することはできませんが、それとは関係なく、医師会としていくつかの事業の中止を決定したり、内容を縮小したりの1年でした。ただし、規模を縮小したことで生じる不具合を、何らかの形でカバーすることが重要であり、決して後ろ向きに後退することにはあってはならないと考えています。縮小した分、内容を充実させ、また、新たな事を始めていかなければなりません。事業の縮小によって、利用者の皆様にご迷惑をおかけすることがあるとすれば、それは、別の形で更にご満足いただけるように努力をしていくことが必要です。

このような状況で、新年にあたり、医師会としてどのようなことができるのか、具体的なことはまだ決まっておりますませんが、早く良いお知らせを皆様にお伝えできればと思っております。また、まだまだ未熟者でございますので、皆様からのご意見を頂戴しながら、今後の医師会運営に役立てていく所存ですので、なにとぞ、よろしくお願ひ致します。

年頭のごあいさつ



本年の当院の取り組みと課題

－特に、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対する取り組みと当面の課題－

鶴岡市立湯田川温泉リハビリテーション病院
院長 武田 憲夫

鶴岡地区医師会会員の皆様、医師会職員の皆様、令和3年、明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願ひ申し上げます。

旧年中は、当院運営に関して、色々ご指導、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

新年に当たり、COVID-19に対する当院の取り組みと当面の課題について述べさせていただきます。

1. 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に対する当院の取り組み

ご存じの通り、本ウイルスに罹患すると、若年者は軽症で済むことが多いようですが、特に65歳以上の高齢者や基礎疾患のある方は重症化し、生命を脅かす可能性が高いと言われております。当院に入院している患者さんは、平均年齢は82歳とご高齢で、しかも、多くの方が様々な基礎疾患をお持ちです。80歳以上の重症化率は15%、50歳未満は0.5%以下とのことです。従いまして、入院患者さんをCOVID-19に感染させない対策が重要と考え、各種マニュアルを作成、状況に応じた対策が取れるように準備しています。当院情報誌「しらさぎ」、当院HPにその内容を詳しく掲載しています。

●面会禁止と入院前PCR検査

院内への感染入り込みの大きなルートは面会の方からですので、当分の間、主治医が特に許可した方以外は面会を禁止しています。また、在宅あるいは施設から直接当院へ入院する場合は、「入院前PCR検査」をお願いしています。

●オンライン面会

長期間の面会禁止は、患者さんに孤独感や、不安な気持ちを持たせてしまいますので、ご家族のスマートフォンなどを使用した「オンライン面会」が出来るシステムを設置しています。

●職員感染の予防

リハビリテーション病院では、日頃職員と患者さんとが接触する機会が多く、職員の感染は、患者さんや職員がクラスターとなる危険性が高いと考えます。不要不急の県外への出張や県外旅行の自粛、院内での感染対策など、職員が、自ら感染する機会を少なくする様、体制の整備と対応を指示しています。

●感染症発生時の対策

院内に感染が起きたときには感染が広がらないよう、遅滞なく対応出来るよう、準備を整えています。また、県内外からの情報、指示に応じて適宜マニュアルの見直しなどを行っています。昨年11月には、「新型コロナウイルス感染症対策本部」(本部長 院長)を立ち上げ、これまで5回本部会議を開催、職員一同で意思統一をしています。

●ゾーニングの設置と職員の対応

院内に感染が起きたとき、感染者および濃厚接触者を隔離する為、院内に「準隔離病棟」を設置し、感染の可能性のある方をここに移動させ、感染拡大を防ぐ体制を作ります。

●地域医療への協力

山形県健康福祉部からの要請を受け、COVID-19に感染して他院で加療を受け、退院可能な患者さんの中で、更にリハビリテーションや入院治療が必要な患者さんの受け入れを行う体制を作りました。

2. 医療体制の整備

昨年4月から、「地域包括ケア病床」を9床整備、その後19床に増床しました。これにより、これまでお引き受けすることが困難であった、突然の腰痛、発熱などがあり、荘内病院に紹介するほどでもないが、入院医療、リハビリテーションが必要な患者さんを準救急でお引き受けすることが出来る様になりました。

3. 医療機器の整備

当院の医療システムの中で大きく立ち後れているのが、医療情報システムです。院内LANは時代遅れで老朽化が目立ちます。近い将来、電子カルテの導入などICTを活用した情報システムの整備が必須です。現在の日本の病院医療のシステムは、ICTシステムの整備が前提になって来ています。これからは、志ある看護師、医師などの医療従事者から選ばれる病院にならなければなりません。その為にも、早急な整備導入をお願いしたいと思います。

以上ですが、COVID-19への対応は、まだ手探り状態です。職員皆で協力して、団結して、感染の広がりが抑えられるよう、努力していく所存です。

表紙写真にご協力いただいた先生の紹介（敬称略）

宮原 信弘	真島 靖子	林 順一	齋藤 慎
伊藤 末志		黒澤 明充	阿部 周市
乙黒 弘樹		錦織 靖	長畑 仁子
伊藤 俊	市川 誠一		


 新年の抱負（年男・年女）
 

真島 靖子（阿部医院）

明けましておめでとうございます。丑年生まれのものんびりやですが、年月が短く感ずるようになりました。

今年もマイ・ペースですが、よろしく願いいたします。



林 順一

牛のように、歩いてきた。時々、猛進しそうになったが、これを抑えるのに、かなり努力が要った。駿馬のような友がいて、遅牛のごとき自分がいた。しかし、ゆきつくところは同じであった。今や、世の中100才時代。84才になる今年、年を取ったという感覚はなく、いろいろやりたいことがある。フランス語でシャンソンを唱うこと、水彩画、パステル画を描くこと、上京して旧友に会いたい、しかし、これは現状では不可能。こののちつづく貴重な時間を大切に、新しく始まるわが人生の旅路の船出に、Bon Voyage!!

宮原 信弘 (みやはらクリニック)

西新宿の東京医大〈消化器・小児〉外科に入局し44年、平成元年6月実家に帰って31年が経ちました。子年なのですが、1月丑年に出生届で6回目の年男です。毎晩飲酒しながら3匹のめす猫〈2才〉と妻と楽しく遊んでいます。医師会、センター、会員の皆様、今年も楽しくおつきあいください。

伊藤 末志 (いとうクリニック)

「ウィズ・コロナ」時代、如何に毎日を過ごすか、誰もが思い悩んでいることでしょう。新しい生活様式を模索しながら、できることなら、焦ることなく、おおらかな気持ちで、繰り返し返される日常を送っていききたいものです。「今年是我慢の年男」来年に期待しましょう。

乙黒 弘樹 (乙黒医院)

こんな年齢になるとは、感慨無量です。

ほぼ同じスケジュールで日々を過ごしているので、あまり実感はありません。

ただ、写真を見ると、じじいになったなと感じました。

市川 誠一 (鶴岡協立病院)

新年のお喜びを申し上げます。

来庄依頼二度目の丑年御縁年を五体無事で迎える事ができませんでした。子供の頃から漠然と富士山を眺めて来ましたが、現在は朝な夕なに美しい臥牛山を遥拝する僥倖に恵まれております。此地の医療・介護・福祉の支えとなって人生下り坂最高！と言えるように頑張りたいと思います。

伊藤 俊 (なごみクリニック)

平成28年からの開業の理念として「庄内の自殺者を減らす」として頑張ってきました。その成果として徐々に自殺者が減ったと思っていたのですが、コロナが蔓延すると全国的には自殺者が増加しているようです。今一度頑張らなければと思う所存です。

齋藤 慎 (齋藤医院)

明けましておめでとうございます。

六回目の年男です。

家庭菜園で芋野菜を作りながら、マイペースで、面白おかしく、少し位は人さまの役に立ちつつ、些か図々しく暮らしたいな～とっております。

黒澤 明充 (黒澤眼科医院)

COVID-19に感染しないさせない。その沈静化を祈る。毎日スクワット10回後15分間歩く。岸信介氏に倣い、健康のためあえて義理を欠く。短期の目標を作り実行する。身のまわりの不要物を少しずつ捨てる。

阿部 周市 (宝田整形外科クリニック)

「少年よ、大志を抱け」と単純な私が触発されたのは中学生の頃だったのでしょうか。未だ志半ばにして、今年シニアと呼ばれる年齢になります。残された人生で、世のため人のために何を成せるか…「乎、人間易老志難成」。

錦織 靖 (三川病院)

この年代になると、伯父クラスの親族の医者が減ってきました。気が合う方が多かったので残念です。

そして、気質的には、徐々に少数派になっていっているような淋しさも感じます。

長畑 仁子 (鶴岡市立荘内病院)

鶴岡に移り5年目の今年、“としおんな”になります。家族3人で引っ越してきましたが、子宝に恵まれ2人増員(^)

家族みんなが健やかに、それぞれが活躍できるよう、良き母、良き妻、良き医師、そしていい女！目指して、良い1年にしたいです！

第40回 市町長・部課長、庄内保健所、荘内病院 こころの医療センター、医師会役員懇談会

日時：令和2年11月9日(水) 18:30～
場所：東京第一ホテル鶴岡 鶴の間

先月号（令和2年12月号）につづき、庄内保健所 蘆野 吉和保健所長・鶴岡地区医師会 小野 俊孝副会長の抄録を掲載いたします。

* * * * *

福祉施設・事業所の感染対応力を強める

庄内保健所長 蘆野 吉和

私がCOVID-19対策として重要と考えている項目は、①感染防止対策（マスクの着用、手指衛生、3密の回避、社会的距離の確保）、②感染拡大防止対策（積極的疫学調査）、③感染者の早期発見による早期隔離、④感染者への医療体制の確保、⑤既存の医療体制（在宅医療を含む）の堅持、⑥既存の介護体制（在宅医療を含む）・障がい福祉サービス提供体制の堅持/高齢者のフレイル対策、⑦地域住民の不安への対応/風評（偏見・差別等）への対応（社会的スティグマへの対応）、⑧こころの健康への対応です。これまで①は国民、②は保健所、③は保健所と感染症対応病院と地区医師会等、④は保健所と感染症対応病院、⑦は地方自治体で対応されていましたが、⑤⑥⑧についてはあまり考慮されていなかったものと思います。今後、地域全体で取り組むべき課題であり、現在、その体制の構築を進めています。その中でも、特に重要な課題が高齢者介護施設および事業所での感染対策の構築/強化です。



その必要性および重要性については、①施設内あるいは地域内に感染が広がりやすいこと、②基礎疾患をもった高齢者が多いため重篤化しやすいこと、③認知機能の低下や精神疾患を持つ人が少なく、病院での隔離が難しいこと、④病院への隔離により早期に身体機能や認知機能の更なる低下および栄養状態の悪化が予測されること（フレイルの進行）、⑤高齢者施設でのアウトブレイクは病院の病床を占有することで地域の医療崩壊にもつながる可能性があること、⑥介護従事者の感染あるいは濃厚接触者認定により地域の介護力が低下すること、⑦介護従事者を含む施設関係者の不安等による離職により施設の運営が困難になること、⑧⑤&⑥により介護家族の負担が大きくなり地域の介護崩壊につながるなど、の点で、皆さんも認識できていると思います。

一方、これまでCOVID-19対策は保健所と感染症対応病院が一手に引き受けていたように感じますが、実はこの状況は、感染症による広域災害で、健康危機管理の必要な事態であり、特に災害が長期にわたり続くことも考え、前述したことも含めると要配慮者への対応が非常に重要になります。

高齢者介護施設/事業所、障がい者介護施設/事業所における感染対策の構築/強化の具体的方策は、①感染防止対策のチェック、②感染防止対策の教育・研修体制の整備、③个人防护具および消毒薬等の備蓄状況の把握、供給体制の確立、④相談支援体制の整備、⑤地域感染対策支援チームの設立です。①～③は施設・事業所の管理者がしっかり行うことが必要ですが、④と⑤は外部からの支援体制を構築することが必要となりますので、今後、皆様方の協力は重要と考えています。

* * * * *

鶴岡地区医師会会員の現況

鶴岡地区医師会副会長 小野 俊孝

都市部への医師偏在と地方の医師減少・高齢化が大きな課題となっていますが、鶴岡地区医師会も同様の困難に直面しています。今回、鶴岡地区医師会員の状況についてまとめさせていただきました。今後も地域の医療を維持するために、皆様のご理解と協力をいただきますようお願いいたします。

鶴岡地区医師会には181人の医師が入会しています。病院、施設、健診センターなど施設勤務医師が68人、一般開業医が99人、高齢・疾病など自宅会員が14人です。全体では75歳以上14.9%（開業医10.1%）、70歳以上29.3%（31.3%）、65歳以上34.8%（44.4%）、60歳以上56.9%（61.6%）となります。開業医99人の内、内科系45人、外科系43人、その他11人ですが、鶴岡地域では、産科、眼科、耳鼻科、小児科などの分野の医師減少が指摘されています。



一方、所属している機関以外に医師として地域の中で担うべき役割があります。主なものを表にしました。役割の多くを主に開業されている先生方をお願いしています。休憩時間や夜間・休日、時には自院の診療を中断して担当いただいています。

会員 協力業務一覧

項目	従事医師数	総数①	総数②
学校医・園医	47人	106施設	地域総数111施設
乳幼児健診	鶴岡市	4人	216回
	三川町	4人	20回
産業医	29人	104事業所	
嘱託医	20人	32施設	地域総数95施設
休日・夜間診療所	63人	※650単位	
警察医・協力医	12人	135件	
障害支援区分 認定審査会	鶴岡市	2人	9回
	三川町	1人	5回
鶴岡市 介護認定審査会	鶴岡市	19人	179回 延べ7,160件 年間380件/1人
教職員メンタルヘルス	5人		
鶴岡地区医師会（役員）	12人		
山形県医師会（役員）	2人		
COVID-19軽症者ホテル健康管理医師	11人	53日	
健康管理センター	健診	23人	279回
	読影	39人	1,325回
准看（講義）	19人	303時間	
連携パス推進協議会	15人		
緩和ケア推進協議会	4人		
在宅医療	41人		
医会・部会	10人		
医療情報ネットワーク協議会	3人		
行政の委員	庄内地区	2人	7委員会
	市・町等	15人	42委員会
			延べ9人 延べ72人

※午前・午後・夜間を各1単位とした

しかし、これまでも増して、これらの分野の担当医の確保が困難となっています。60年以上の長い間准看護師養成を任ってきた鶴岡准看護学院の閉校は、講師の確保困難が主因の一つです。また、鶴岡市・三川町の行っている乳幼児健診と休日・夜間診療所の開設日の縮小を関係機関と協議中です。その他、学校医・園医、産業医、介護認定審査会など行政の委員、遺体検案医などの担当医の確保に苦慮しています。

これらの役割は地域が成り立つために必要なものです。個々の医師の問題ではありませんが、地域の医師の問題、鶴岡地区医師会の重要な課題であります。多くの地域の医師と関係機関のご協力をいただきながら困難に対応したいと考えています。

エー(A)会員になりました

—新規開業医紹介—

もりむら皮膚科クリニック 森村 広子

医師会の皆様、いつも大変お世話になっております。2020年6月に鶴岡市みどり町にもりむら皮膚科クリニックを開院して、12月で半年を迎えました。

私は熊本県出身です。九州の女性はお酒が強いと思われがちですが、特に強くはなく嗜む程度です。高校大学は東京で、スーパーローテート（初期研修）の制度が始まる直前である2003年に大学を卒業し、直接皮膚科に入局をした最後の世代です。正直まだ若いうちはクリニック開業をあまり想定しておらず、大学院に寄り道して学位を取ったり、大学医局の指示に従い東京都内の病院を回ったり、行き当たりばったりでやってきました。

2012年に結婚を機に鶴岡市に移住しましたが、これを機会に医局を辞し、「自分はどのような形で働いていきたいのか？」を初めて考えました。それも相当ゆっくりのんびり考えましたので、考える間も仕事をしないわけにはいきません。2012年末より鶴岡協立病院で勤務し、協立病院の皆様や地域の先生方にたくさんご指導をいただきました。その中で、「やはり自分は多くの患者さんに直接接して関わっていききたいのだ」との確信を持ちました。そんな折に、自分の生活圏内によい物件が見つかり、これがタイミングというものなのだろうと開業を決意いたしました。

決意したものの開業について勉強・準備してきたわけでもなく（やっぱり行き当たりばった

り）何もわからない初心者です。銀行融資や機械の選定、電子カルテの選定、スタッフ選定、雇用の手続きなどなど、おのれの世間知らずさが身にしみました。そしてこうもやることが多いのかと、改めてクリニック運営されている諸先輩方を尊敬いたしました。

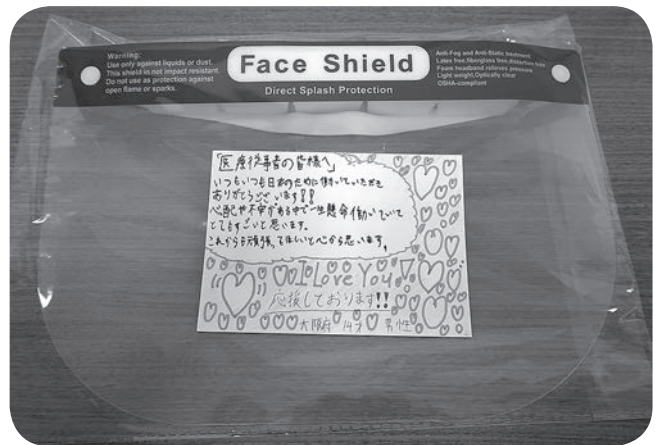
そして今年のコロナ禍です。ちょうど流行り出した頃に前職を退職しており無収入。どうなることかと胃の痛くなる思いでした。皆様のご支援、ご指導によりおかげさまで予定通りのスケジュールで開業にこぎつけることができました。感染症対策として、一般的な受付のシールド、診察室や待合室の消毒作業の他に、完全予約制（電話予約・web予約）を採用しました。もちろん急患は予約外であっても受け付けます。オンライン診療についても悩みましたが、高齢者の多い地域ということもあり今のところは行っておりません。

まだ始まったばかりのクリニックで、一定水準の診療内容を患者さんにお届けできるシステムづくりがまだまだ必要な段階です。ありがたいことに、前職よりの患者さんや近所に居住している方、近所で勤務している方などが来院してくれています。でもまだ、うまく回っているのかどうかの感覚がつかめず、心許ない感じというのが正直なところ。諸先輩方のように安定したクリニック運営ができるよう、なんとか頑張っていきたいと思っております。今後も何卒ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



～ 寄贈いただきました ～

日本医師会を通して、プロビーチバレー選手の越川優氏よりフェイスシールドを寄贈いただきました。このフェイスシールドには、越川選手が全国で開催したイベントに参加した全国の中学生バレーボール選手が、新型コロナウイルス感染症と戦う医療従事者へのメッセージを書き込んだメッセージカードが添えられておりました。誠にありがとうございます。



医療従事者の皆様へ
いつもお仕事を頑張る皆様応援しています。頑張る姿が、私達に勇気を与えています。本気で取り組んでほしいです。早く帰国してください。応援しています!!!
大阪府 14才 女性

「医療従事者の皆様へ」
いつもいつも日本のために働いていただきありがとうございます!!!
心配や不安がある中で一生懸命働いていてとてもすごいと思います。
これから頑張るほしいと心から思います。
「I Love You!!!」
応援しております!!!
大阪府 14才 男性

医療従事者の皆様へ
コロナで大変な中、人を助けるために働いてくださりありがとうございます。
私達も感染が広がらないように、私達にできることからしていきます。
コロナに負けることなく、がんばってください。
本当にありがとうございます!!
堺市立長尾中学校 13才 女性

医療従事者の皆様へ
この時期、新型コロナウイルスが流行しているのが大変だと思います。もし、自分がコロナになったらどうしようと考えると心配です。
ですが、病気に負けている人を助けたい気持ちには変わりません。いつも、大変な中、元気で頑張っているからです。
ありがとうございます。
私も、感染しないようにマスクや手洗い、うがいをこまめにします。
これからもがんばってください!!
堺市立長尾中学校 12才 女性

医療従事者の皆様へ
いつも毎日、コロナとたたかいてくれてありがとうございます。これからも元気でがんばってほしいです。
コロナがおさまるまで、よろしくがんばってほしいです。
ファイトー!!!
堺市立長尾中学校 13才 女性

医療従事者の皆様へ
コロナに負けずに頑張ってください。
僕も手洗い、うがい、消毒して、気をつけます。
ありがとうございます!!!
応援しています。
体調にも気をつけてください!!
堺市立長尾中学校 12才 男性

表紙

「金牛」

林 順一

謹んで牛年を賀す。今年も良い年でありますように。
2021年の干支占いによると、金牛、金持の牛、とある。これは有難い。

2月号 休刊のお知らせ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各種行事等が中止となり、掲載を予定しておりました原稿が少なく、2月号を休刊することになりました。
何卒ご理解いただきますようお願い申し上げます。

編集後記

皆様、新年あけましておめでとうございます。

原稿を書いている今は、年末年始に向かって医療団体から医療緊急事態宣言が出され不安感が増しています。めでいかすとる1月号がお手元に届く頃は、どーなっていることでしょうか。庄内でも新型コロナウイルス感染症の散発、クラスター、院内集団発生などがあり、切迫感が増しています。一方、インフルエンザの発生は無く、同時流行の懸念はなさそうです。

来春ごろから、新型コロナウイルスへの予防接種が始まりそうです。効果や副反応について取りざたされていますが、すべての方々へ地域丸ごとの接種となります。新型インフルエンザワクチンの時を思い出します。さらに大規模な予防接種体制づくりに取り組むことになりそうですが、前回の教訓を生かして、混乱なく行いたいものです。

毎年1月号の表紙には年男・年女の先生方の写真が掲載されます。手元にある原稿の写真を拝見しながらご挨拶、お話をさせていただいた時のことを思い浮かべています。各種の集まりも中止となり、先生方と親しく懇談できる機会もなく、寂しく感じていました。またゆっくり楽しいお話を聞かせていただける時を心待ちにしています。

森村広子先生には、大変な年の開業となりました。ご苦労も多いと思いますが、何でもお声かけいただきますように、今後とも地区医師会の仲間として、よろしく願いいたします。

新しい年が会員の皆様、地域の皆様にとって良い年であることを願っています。

(小野 俊孝)

編集委員：渡邊秀平・小野俊孝・吉田 宏・木根淵智子・菅原真樹・中目哲平

発行所：一般社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail ishikai@tsuruoka-med.jp

ホームページにも掲載しております [鶴岡地区医師会](http://www.tsuruoka-med.jp)  URL <http://www.tsuruoka-med.jp>